

茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック

茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック

茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック

茨木版 共創デザインブック



茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック 茨木版共創デザインブック

共創の取り組みを通じて

こどもと参加した花植えワークショップ。お花の様子になって、少し遠回りして通勤しています！
(20代・女性)

ワークショップを通じて地元の飲食店とつながりができ、茨木で食を楽しめる幅が広がりました！
(30代・女性)

参加者の声

「やってみたい」と思う楽しさが連鎖していったのが印象的でした！
(40代・女性)

「いばらきバル」をきっかけに、お気に入りの店を見つけるたびにSNSで宣伝しちゃいます！
(40代・男性)

担当していた広場の音楽イベントが楽しすぎて、自分も主催者と一緒にDJやっちゃいました！
(30代・男性)

一人だけなら絶対に思いつかない展開がどんどん生まれていきました！
(30代・女性)

市職員の声

これまでにない掛け合わせが想像以上の成果につながりました！
(40代・男性)

イベント出展してくれた団体がおもしろくて、活動しているところに顔を出すようになりました！
(20代・男性)

目次

茨木版共創とは	3
共創に必要な要素	4
共創のカタチ	6
共創事業のレシピ	15
インタビュー	22
おわりに	34



これまでは、行政や専門家、経験や知識のある人たちが中心となり、目の前の課題に取り組む「『課題』が動かすまちづくり」が主流でした。もちろん、課題解決のための取り組みは重要であり、これからも欠かすことはできません。

茨木版共創は、そうした課題解決に加わった、
「『共感』が動かすまちづくり」です。

行政、専門家はもちろん、「おもしろそう」と気軽に立ち寄った人まで、誰もが主役。「ワクワクする」「ここがいい」と感じた新しい景色も、「こんなまちにしたい」「こんな毎日が送れたら幸せ」という想いも、「いいね!」って共感した人たちが、参加したり一緒に活動したりすることで、実現に向けて新たなまちづくりが動き出すかもしれません。

そして何より、その過程で経験する試行錯誤や人とのつながり、「楽しい!」という気持ちは共鳴するように次なる共創や新しい活動へと広がり、さらにはそれぞれの自己実現や日々の幸せ、豊かさの実感へと結びついていきます。

最近よく耳にする「共創」という言葉。2025年の大阪・関西万博でもコンセプトの一つになっていたのだから覚えている人も多いのでは。

価値観の多様化が進み、変化の激しい現代において、対話やプロセス、共感を大切にす「共創」は、これからのまちづくりの重要なポイントになると期待されています。

でも、ちょっと考えてみると...「共に創るって...何を?」、「なんだかちょっと難しそう...」という風に感じる人もいます。

「茨木版共創デザインブック」は、茨木市が考える「共創のカタチ」や様々な事例を示して、みなさんの「？」を「😊」に変えることで、まちのそこかしこで「共創」が展開されてほしい、そんな想いを込めてつくった冊子です。

たくさんの実践から 共創の素地はもう茨木にある

IBALAB、みちクル、あぐりば...実際に一緒にやってきた経験が、共創文化を育てている。

つなぐ、シェアする コーディネーター

想いを受け止め、想いを伝える、つながりを広げる役割。

「いいね!」からはじめると 対話はもっと豊かになる

「批判」じゃなく「肯定」から。
お互いのリスペクトと「おもしろそう」と
素直に言える雰囲気が、創造性を引き出す。

楽しいから続く、 続くから育つ

「楽しい」が続けるためのコツ。「楽しい」と
「達成感」が循環して、気づいたら自分ごとに。

ごちゃまぜだから、普段出会わない人と出会う

世代・立場・専門性を越えた偶発的な出会いや、
気軽な雑談こそが、化学反応を起こし、新しい「何か」を生み出す。